



欄に数値またはコメントを記入

<b>1. 建物概要</b>						
建物名称	(仮称)ブラスメゾン千代田新築工事	BEE	1	BEEランク	B+	★★★

2. 重点項目への取組み度						
重点項目	得点 <sup>※</sup> /満点	取組み度	評価			
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.1	/5				ふつつ
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.8	/5				がんばろう
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.1	/5				ふつつ
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.5	/5				がんばろう
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上	ふつつ 3 点以上	がんばろう 3 点未満	

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目		
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。				
<b>"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)</b>		得点	3.1	
<p>■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ③住宅部分の昼光率0.75%を確保し、上階バルコニー(庇の代用)やカーテンを用いることにより、室内において昼光を制御しやすした。 ④タイル貼の耐用年数は40年</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑥敷地の69.4%を空き地とし、風の通り道を確保した。</p> <p>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑨住戸全戸でLEDを使用する等の計画をし、BEI=0.90になるように一次エネルギーの消費を抑えた。 ⑩各階EPSI、各住戸の電力計がある。</p> <p>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪便器は、従来に比べて41%分の節水ができる節水型便器を使用し、節水に配慮した。 ⑬断熱材は、ODP=0の材料を使用し、オゾン層を破壊しないようにした。</p> <p>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭ライフサイクルCO2排出率を、一般的な建物の96%となるよう設計した。 ⑮隣等間隔指数1.71を確保し、夏季に敷地内を通る風が回復しやすいようにした。</p>	Q-1 2 2.1 2.1.2 Q-1 3 3.1 3.1.3 Q-2 2 2.2 2.2.1 2.2.2 2.2.3 2.2.4 2.2.5 2.2.6 Q-3 1 3 3.2 LR-1 1 2 3 4 4.1 4.2 LR-2 1 1.1 1.2 1.2.1 1.2.2 2 2.1 2.2 2.3 2.4 2.5 2.6 3 3.1 3.2 3.2.1 3.2.2 3.2.3 LR-3 1 2 2.2	① 外皮性能 ② 昼光利用設備 ③ 昼光制御 ④ 躯体材料の耐用年数 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ④ 主要設備機器の更新必要間隔 ⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの高効率化 ⑩ モニタリング ⑩ 運用管理体制 ⑪ 節水 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑫ 材料使用量の削減 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 ⑬ 消火剤 ⑬ 断熱材 ⑬ 冷媒 ⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善		
	<b>"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)</b>		得点	2.8
	<p>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑰電気設備・通信設備ともに、浸水する危険性がない。</p>	Q-2 2 2.1 2.1.1 2.1.2 2.4 2.4.1 2.4.2 2.4.3 2.4.4 2.4.5	⑯ 耐震性 ⑯ 免震・制振性能 ⑰ 空調・換気設備 ⑰ 給排水・衛生設備 ⑰ 電気設備 ⑰ 機械・配管支持方法 ⑰ 通信・情報設備	
		<b>"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)</b>		得点
<p>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑳各階の階高は2.96mとし、階高に余裕をもたせた。</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) ㉑1階共用部に防犯カメラを設置し、防犯性に配慮した。</p>	Q-2 1 1.1 1.1.3 3 3.1 3.1.1 3.1.2 Q-3 3 3.1	⑱ ⑲ ユニバーサルデザイン計画 ⑲ 階高のゆとり ⑲ 空間の形状・自由度 ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上		
	<b>"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)</b>		得点	2.5
<p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑥景観条例に適合させ、周囲と調和するように配慮した。 ⑥敷地の69.4%を空き地とし、風の通り道を確保した。</p> <p>■敷地外環境対策 (⑫持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善) ⑮隣等間隔指数1.71を確保し、夏季に敷地内を通る風が回復しやすいようにした。</p>	Q-3 1 2 3 3.2 LR-2 2 2.5 LR-3 2 2.2	⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ ⑮ まちなみ景観への配慮 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑮ 温熱環境悪化の改善		

# CASBEE<sup>®</sup>-建築(新築)

# 評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ブラドスモン千代田新築工事	階数	地上5F
建設地	静岡県静岡市葵区千代田六丁目84	構造	RC造
用途地域	第二種住居地域	平均居住人員	94 人
地域区分	7地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年1月 予定	評価の実施日	2023年9月22日
敷地面積	1,621 m <sup>2</sup>	作成者	早野 真介
建築面積	478 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	2,057 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.0**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5  
Q1 室内環境: 3  
Q3 室外環境(敷地内): 3  
LR1 エネルギー: 3  
LR2 資源・マテリアル: 3  
LR3 敷地外環境: 3

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Q のスコア = 2.8

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.4

**LR 環境負荷低減性** LR のスコア = 3.2

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.5

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		その他
<b>総合</b> これは、CASBEE静岡(2021)による評価である。		特になし
<b>Q1 室内環境</b> 住宅部分の屋光率0.75%を確保し、上階バルコニー(庇の代用)やカーテンを用いることにより、室内において屋光を制御しやすくした。	<b>Q2 サービス性能</b> 各階の階高は2.96mとし、階高に余裕をもたせた。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 景観条例に適合させ、周囲と調和するように配慮した。また、敷地の69.4%を空き地とし、風の通り道を確保した。
<b>LR1 エネルギー</b> 住戸全般でLEDを使用する等の計画をし、BEI=0.90になるように一次エネルギーの消費を抑えた。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 節水型便器を使用し、従来の41%分の節水をした。また、断熱材はODP=0の建材を使用し、オゾン層に影響を及ぼさないようにした。	<b>LR3 敷地外環境</b> 隣等間隔指数1.71を確保し、夏季に敷地内を通る風が回復しやすいようにした。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される